

医師による 臨床指導の実際

洛和会音羽病院

呼吸器内科 中西 陽祐

目次

- ▶ 特定行為とは
- ▶ 呼吸器科での臨床指導
- ▶ 他科での臨床指導
- ▶ 特定行為・研修の問題点

特定行為とは

「特定行為に係る手順書例集作成事業」の手順書例集

(原文より)

手順書例集にまとめた手順書例はあくまで一例であり、これらを参考に、各医療現場で、現場に即した手順書を作成いただきたい。

特定行為とは

特定行為	特定行為の概要
経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸音、一回換気量、胸郭の上がり等）及び検査結果（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）、レントゲン所見等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、適切な部位に位置するように、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの深さの調整を行う。
侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により、身体所見（人工呼吸器との同調、一回換気量、意識レベル等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、酸素濃度や換気様式、呼吸回数、一回換気量等の人工呼吸器の設定条件を変更する。
非侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、気道の分泌物の量、努力呼吸の有無、意識レベル等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の設定条件を変更する。
人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（睡眠や覚醒のリズム、呼吸状態、人工呼吸器との同調等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、鎮静薬の投与量の調整を行う。
人工呼吸器からの離脱	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、一回換気量、努力呼吸の有無、意識レベル等）、検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）等）及び血行動態等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、人工呼吸器からの離脱（ウィーニング）を行う。

特定行為とは

手順書例集は参考程度。

現場で実施可能な手順を作り上げていく必要がある。

医療機関が異なれば手順書も異なるため、
HOW TOのみの習得では成り立たない可能性がある。
また、手順書作成において各医療機関でどの程度実質的な研修が可能であるかに大いに影響をうける。

呼吸器科での臨床研修目標 (前期、後期)

▶呼吸器内科研修での目標

- 呼吸器疾患の基礎知識の習得
- 酸素療法の基礎知識の習得
- 人工呼吸器（IPPV、NPPV、HFNC）の設定
- 回診での身体診察法の習得
- 症例検討

呼吸管理（気道確保に係るもの） 関連

臨床研修の目的： ■ 安全・確実に気管挿管後のチューブ固定ができる
■ 気管挿管中の患者管理ができる

臨床研修の方法： 麻酔科医による気管挿管後のチューブ固定

研修場所： 手術センター内

指導内容： ■ 術式にあったチューブの選択
■ 術野・体位に応じた固定部位の選択
■ 挿管中のトラブル対処方法とその実際

研修効果： 医師業務の効果的な役割分担が可能
わずかな時間ではあるが、麻酔導入時の煩雑なときにチューブ固定を任せられるため、その間他の業務に時間を使える

活動にむけた課題： 現行では気管挿管チューブの固定のみの研修である。
周術期の看護も含めて学んでもらえると、組織的にもメリットがあるのではないかと考える。

循環動態に係る薬剤投与関連

臨床研修の目的：
■ 安全・適切な循環動態管理ができる
■ 体液量の調整に係る糖質・電解質の補正ができる

臨床研修の方法：
■ 診療科カンファレンスへの参加
■ 回診への同行

研修場所： 一般病棟（循環器病棟、総合内科）

指導内容：
■ 急性期心不全患者の全身状態管理
■ 検査・治療後の患者評価と臨床判断

研修効果： 現状では担当診療科医師との同行が単発的であり、特定看護師の知識や技術がどの程度備わっているかの評価には至っていないが、今後行動を共にでき、特定看護師の活動が定着すれば、診療科に不可欠な存在になることが期待される。

活動にむけた課題： 一方で、単発的な活動は指導医師にとって負担でしかない。研修体制の整備とともに特定看護師の活動が明確化されることが最優先課題であると考えます。

術後疼痛管理関連

臨床研修の目的：
■ 硬膜外麻酔の薬理作用を理解し、持続投与の準備ができる
■ 安全・適切に術後患者の疼痛管理ができる
■ 疼痛管理に係る指示変更の確認ができる

臨床研修の方法：
■ 手術センターでの薬剤準備
■ 術後の当該病棟回診への同行

研修場所：手術センター、一般病棟

指導内容：
■ 硬膜外麻酔の効果と持続麻酔中の患者管理
■ 術後疼痛管理と患者アセスメント

研修効果：術後疼痛管理は医師の包括指示の下、全看護師に調整権限があり、特定行為との差別化は困難であるが、医師不在時に適切な患者アセスメントと対応ができるのであれば効果はあると思われる。

活動にむけた課題：現状では、疼痛管理に関するプロトコールは各診療科で異なるため、院内統一基準の作成等に特定看護師が参画し、安全に患者管理が実践されるよう教育・指導的な役割を持つことが期待される。

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

臨床研修の目的： ■ 安全・適切に血糖調整に係る薬剤管理ができる
■ 周術期患者の血糖薬剤管理ができる
■ 患者管理に係る異常の早期予測、予防ができる

臨床研修の方法： ■ 診療科カンファレンスへの参加
■ 病棟回診への同行

研修場所： 糖尿病内科病棟、周術期患者で血糖調整の必要な各病棟

指導内容： ■ 病態に応じた血糖管理と治療方針
■ 薬剤の種類と患者の病態に応じた選択
■ 血糖管理および設定変更後の患者アセスメントと臨床判断
■ 血糖管理が必要な患者への教育・指導

研修効果： 血糖調整に係る十分な知識に基づき、患者アセスメントが的確に実施できるため、必要な患者情報を適切に共有でき、きめ細やかな血糖管理が可能である。

活動にむけた課題： 現状では、常時指導医と行動できるわけではないため、活動が限られる。今後は組織横断的に活動できるような体制整備が必要。

特定看護師のイメージ



特定行為研修を行う際の問題点

- ▶ 研修期間について（断続的、季節性）
- ▶ モデル患者の不在（研修の質の担保が困難）
- ▶ 看護師毎のバックグラウンドの違い
- ▶ 医師指示との違い
- ▶ 医師側のモチベーション
- ▶ 急性期病院での特定行為の実施について

最後に

- ▶ 特定行為研修では知識と技術の習得と向上は必須です。
- ▶ 制度はまだ始まったばかりであり、今後研修される皆さんと共に創り上げる必要があります。
- ▶ 当院での研修プログラムが特定行為の実施へむけた一助となれば幸いです。
- ▶ 研修に関しては医師からの全面的な協力のもとに行って頂きます。